

公表 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表:令和 6年 9月 24日

事業所名 さくらクラブ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			部屋数は少ないが、広さは確保できている。	必要に応じて間仕切り等を検討する。
	2 職員の配置数は適切である		✓		少ない職員体制で協力して、活動を行っている。	加配体制での活動支援が行える職員配置を目指す。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		✓		構造化まで行えていないが、道具等、配置は決めている。事業所内は段差が少なく、車いすの利用は可能。	構造化までは至らないが、「分かりやすく」を意識している。必要に応じて、個別に対応を行っている。車いすの方など、配慮が環境面での配慮が必要な方がおらず、十分に検証はできていない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓			毎日、清掃・消毒を行い快適に過ごせるような環境設定を心掛けている。	ワンフロアで広く、使い方が自由に設定できる一方、音が響きやすくまた視覚的に遮るものが何もない。良い部分と、そうではない部分を検証し、環境設定について考えていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		✓		事業理念、事業計画との連動等を意識した目標管理設定。毎朝の打ち合わせ。	活動内容・動き、事務・配布物等、細かなことを含めて、検証、目的の共有化を進めていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		✓		評価アンケートを集約し、職員間で確認している。	アンケート等でいただいたご意見、懇談や送迎時等、お聞かせいただいたお話を業務改善につなげていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			自己評価も事業所評価と共に配布、HPへアップしている。	希望があれば、見学者等にも配布、説明を行って行くように努める。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			✓	決算・活動報告等、総会及び法人広報誌で公表しているが、第三者評価は未実施。	9月に第三者機関による外部評価を実施する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		✓		児童部門として毎月1回、職員研修を実施。また法人の全体研修に参加している。	担当者をおき、支援、制度、運営、様々な研修を実施しているが、行政主催の研修に参加する機会を作るも、回数が少なく課題。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓			活動の様子、ご家族の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行っている。	アセスメント、分析の在り方について、様々な捉え方、考え方があると思うが、研修等を通じて研鑽に努める。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		✓		支援等の記録をベースに職員間で話し合いを行っている。	行動の状況を把握するために、職員間で意見交換し、客観的に状況把握をようしているが、特定ツールは利用していない。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		✓		活動の様子、ご家族の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行うようになっているが、必要な項目について、適切に選択できているか検討する必要がある。	必要な項目設定については、一人ひとり異なる。アセスメント、分析の在り方について、様々な捉え方、考え方があると思うが、研修等を通じて研鑽に努める。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている		✓		週単位で活動を計画しつつ、子どもの声(ニーズ)を取り入れ柔軟に活動している。	片寄りが生じないか、検証し多くの経験が出来る活動内容を考えていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている		✓		活動内容については、職員間で意見交換を行うようになっている。	当事者、家族の声を反映し、また第三者的にいとうか等、検討し実施する。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		✓		週間単位、休暇中の活動を確認、より多くの経験が出来るように設定している。	課題改善だけでなく、自信を持てるかという部分に焦点をあて、ストレングス部分の強化にもつなげていく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		✓		ご家族、職員間で意見交換し、計画を作成するようになっている。	一人ひとりの目指すべき目標、課題について意見交換し、計画を作成するよう心掛けるようになっているが、ご本人のニーズの聞き取り、反映がまだ不十分と感じる。研鑽に努める。
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓			毎朝、職員朝礼を行っている。	朝礼時に、前日の報告、連絡事項、利用者の出欠、送迎について確認を行っている。	

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		✓		送迎終了時間の都合で、その日のうちに打ち合わせできない場合があるが、情報共有を行っている。	緊急対応、翌日のことなど確認する必要があることは適時確認するようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		✓		日々の活動、支援内容については支援記録を作成している。	主観的記録(エピソード記述等)と客観的記録を用い、支援の検証・改善方法について考えていく。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓			半年に1度、懇談、モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている。	変更(見直し)等の在り方について、今後も引き続き検証していく。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		✓		出来る限り、複数名(サービス管理責任者と現場職員)で参加するようにしている。	会議前に、意見交換等を行い、状況、今後に向けて確認を行う。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		✓		要望、ニーズに応じて関係機関と連携し支援を行っている。	関係機関との連携の在り方について検討し、引き続き、積極的な情報共有、確認等が取れるようにしていく。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			✓		看護師配置が出来ておらず、また相談、連携についても具体的な方法を検討出来ていない。	受入れ可能な体制が取れるのかどうか。法人勤務(他部署)の看護師、産業医とも相談していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			✓		看護師配置が出来ておらず、また相談、連携についても具体的な方法を検討出来ていない。	受入れ可能な体制が取れるのかどうか。法人勤務(他部署)の看護師、産業医とも相談していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		✓			サービス調整会議等を通じて情報共有を行っている。	必要に応じて、またご家族と相談し、連携の方法について模索していく。また受け身になるのではなく、疑問点など積極的に発信出来るよう心掛けていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		✓			サービス調整会議等を通じて情報共有を行っている。	必要に応じて、またご家族と相談し、連携の方法について模索していく。また受け身になるのではなく、疑問点など積極的に発信出来るよう心掛けていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		✓			記載センターとの連携機会を得て、研修に参加した。	内外研修について、管理者だけでなく、現場の職員の意見を取り入れ、研修計画を作るようにしていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			✓		野外活動時に交流を行うことはあるが、定期的に機会を作れていない。	子ども食堂や左記記載事業との交流を検討する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		✓			子どもワーキングに参加している。	情報を受けているが、何か働きかけが出来ていると言えれば不十分。地域課題を考え、参加出来ない事業所と情報共有を行っていききたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓				送迎時、懇談時を利用し、情報共有を行うようにしている。	決められた時間だけでなく、些細な事でも相談できる、話が出来るようにご家族の方に働きかけていく。
保護者への	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		✓		ペアトレとまでは言えないが、事業所での活動を通じて、取り組み等一緒に考えるようにしている。	ペアトレ、またご家族の方同士で相談できるような場所(機会)の提供が出来るように検討していく。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		✓		契約時に時間をかけて説明を行うようにしている。	契約時だけでなく、いつでも質問に答えられるようにする。また自己負担が必要な行事等は事前に連絡を行う。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		✓			懇談、個別支援計画の配布等を通じて同意を得ている。	同意を得る過程の中で、様々なご意見に対して、真摯に向き合っていく。意見に気が付くよう職員一人ひとりが意識していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		✓			必要な助言が行えているどうか分からない部分があるが、都度時間を設けるようにしている。	研修等を通じて、保護者の皆様の困りごとに寄り添い、信頼していただけるように研鑽を積むようにする。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		✓			野外交流会の実施、「交流の場」というフリーで話をする場を定期的に設定。	様々な交流の在り方について検討を行い、懇談等 ご家族の意見を聞きながら、交流・連携のあり方について検討する。

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓		懇談や送迎時に限らず、相談があれば電話、メール、直接等、柔軟に対応するようにしている。	事業所が、ご家族にとって、相談がしやすいところであるように、確認、自己研鑽に努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓		クラブだよりを年3回発行。LINE登録者に活動報告を定期配信。また法人からはニュースを発行している。	クラブだよりの紙面充実に努める。またSNS等ご意見をいただきながら、情報提供のあり方について今後も検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	✓		意識しているつもりであったが、手紙を誤って持ち帰る事例が発生した。	個人情報の管理は当然のこと、名前が記載しているものはすべて個人情報であることを改めて確認する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓		一人ひとりに応じた、意思疎通方法を考えるようにしている。	適切に情報伝達が出来ているかどうか、アンケートや直接寄せられた意見を参考にし、随時、再検討を行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		✓	回覧板、施設外清掃等での交流はあるが限定的になっている。	コロナ以前のように、地域の行事に参加する等、折を見て再開させていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓		各種整備しているが、ご家族に向けては説明不足がある。	マニュアルの確認・検証を継続する。また事業所の利用時だけでなく、懇談時や広報誌などを使って説明を行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓		避難、消火、救急救命訓練は定期的に行っている。BCPを作成した。	水害・ハザードマップについての研修は実施したが、訓練を行っていない。BCPは作るだけでなく、検証を行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	✓		利用前の面談時に、身体的な状況、服薬について確認している。	服薬変更等、懇談時に確認するようにしているが、漏れがないように確認していく。必要に応じて、医師の意見書の提示を求める。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓		ご家族の方からのご相談に応じ、おやつ等 配慮している。	除去対応が適切に行われないと命に係わる事故となる。確認を怠らないようにする。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓		ヒヤリハット報告書を作成、月毎の会議で情報共有を行っている。	検証を行う時間が十分持てていない。大きな事故につながらないよう、一つひとつの報告を大切に検証する。(虐待防止委員で報告)
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓		毎年、事業所・法人単位、虐待防止の研修を行っている。	虐待防止は知識だけでなく、支援の力向上にも継続して取り組む。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	✓		身体拘束マニュアルがある。事業所を利用いただく前に説明を行っている。	事業所の身体拘束についての考え方について記載しているが、十分説明が出来ていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

公表:令和 6年 9月 24日

事業所名 さくらクラブ

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			部屋数は少ないが、広さは確保できている。	必要に応じて間仕切り等を検討する。
	2	職員の配置数は適切である		✓		少ない職員体制で協力して、活動を行っている。	加配体制での活動支援が行える職員配置を目指す。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	✓			事業所内は段差が少なく、車いすの利用は可能。	車いすの方など、配慮が環境面での配慮が必要な方がいない。十分か検証はできていない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		✓		事業理念、事業計画との連動等を意識した目標管理設定。	定期的な振り返りが不十分な部分あり。法人理念と通常業務のつながり、手段の検証、共有化を進めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		✓		評価アンケートを集約し、職員間で確認している。	アンケート等でいただいたご意見、懇談や送迎時等、お聞かせいただいたお話を業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓			自己評価も事業所評価と共に配布、HPへアップしている。	希望があれば、見学者等にも配布、説明を行っていくように努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			✓	決算・活動報告等、総会及び法人広報誌で公表しているが、第三者評価は未実施。	法人の他部門において、一部実施している。さくらクラブにおいても今後の実施を検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		✓		毎月1回、職員研修を実施している。	担当者をおき、支援、制度、運営、様々な研修を実施しているが、外部研修の機会が少ないのが今後の検討課題。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	✓			活動の様子、ご家族の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行っています。	アセスメント、分析の在り方について、様々な捉え方、考え方があろうと思うが、研修等を通じて研鑽に努める。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		✓		支援等の記録をベースに職員間で話し合いを行っている。	行動の状況を把握するために、職員間で意見交換し、客観的に状況把握をようしているが、特定ツールは利用していない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか		✓		利用児童の受け入れがない時などを中心に、話し合う機会を設けている。	多くの経験が事業所内で出来るように話し合いを継続していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		✓		週単位で活動を計画しつつ、子どもの声（ニーズ）を取り入れ柔軟に活動している。	片寄りが生じないか、検証し多くの経験が出来る活動内容を考えていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		✓		週間単位、休暇中の活動を確認、より多くの経験が出来るように設定している。	課題改善だけでなく、自信を持てるかという部分に焦点をあて、ストレッチ部分の強化にもつなげていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		✓		ご家族、職員間で意見交換し、計画を作成するようにしています。	一人ひとりの目指すべき目標、課題について意見交換し、計画を作成するよう心掛けるようにしているが、ご本人のニーズの聞き取り、反映がまだ不十分と感じる。思いを受け止めていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓			毎朝、職員朝礼を行っている。	朝礼時に、前日の報告、連絡事項、利用者の出欠、送迎について確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		✓		送迎終了時間の都合で、その日のうちに打ち合わせできない場合があるが、情報共有は行っている。	緊急対応、翌日のことなど確認する必要があることは適時確認するようになっている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		✓		日々の活動、支援内容については支援記録を作成している。	主観的記録（エピソード記述等）と客観的記録を用い、支援の検証・改善方法について考えていく。	
18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	✓			半年に1度、懇談、モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている。	変更（見直し）等の在り方について、今後も引き続き検証していく。	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか		✓		事業所の活動内容とニーズに沿った形で実践を行うようにしている。	ガイドライン、領域を意識した活動内容を今後も検討していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		✓		出来る限り、複数名(サービス管理責任者と現場職員)で参加するようにしている。	会議前に、意見交換等を行い、状況、今後に向けて確認を行う。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		✓		ご家族の方から、年間計画、行事のことをお聞きし、送迎時、先生と話をし確認することが多い。	どちらかという、情報を「待っている」ことが多い。情報の確認を積極的に行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			✓	看護師配置が出来ておらず、また相談、連携についても具体的な方法を検討出来ていない。	受入れ可能な体制が取れるのかどうか。法人勤務(他部署)の看護師、産業医とも相談していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		✓		サービス調整会議等を通じて情報共有を行っている。	必要に応じて、またご家族と相談し、連携の方法について模索していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		✓		近年、卒業生がいないが、福祉サービスの情報提供の方法など、考えていきたい。	同法人(花の会)では、様々な事業を行っている。各部署と連携し福祉サービスについて、説明できる場を作ったが継続していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		✓		記載センターとの連携機会を得て、研修に参加した。	内外部研修について、管理者だけでなく、現場の職員の意見を取り入れ、研修計画を作るようにしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			✓	野外活動時に交流を行うことはあるが、定期的に機会を作れていない。	子ども食堂や左記載事業との交流を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		✓		子どもワーキングに参加している。	情報を受けているが、何か働きかけが出来ていると言えは不充分。地域課題を考え、参加出来ない事業所と情報共有を行っていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓			送迎時、懇談時を利用し、情報共有を行うようにしている。	決められた時間だけでなく、些細な事でも相談できる、話が出来るようにご家族の方に働きかけていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		✓		ペアトレとまでは言えないが、事業所での活動を通じて、取り組み等一緒に考えるようにしている。	ペアトレ、またご家族の方同士で相談できるような場所(機会)の提供が出来るように検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		✓		契約時に時間をかけて説明を行うようにしている。	契約時だけでなく、いつでも質問に答えられるようにする。また自己負担が必要な行事等は事前に連絡を行う。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		✓		必要な助言が行えているどうか分からない部分があるが、都度時間を設けるようにしている。	研修等を通じて、保護者の皆様の困りごとに寄り添い、信頼していただけるように研鑽を積むようにする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		✓		野外交流会の実施、「交流の場」というフリーで話をする場を定期的に設定。	様々な交流の在り方について検討を行い、懇談等 ご家族の意見を聞きながら、交流・連携のあり方について検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		✓		苦情対応者(管理者)を設置していることを周知(ポスター等)を行っている。また迅速に対応するよう心掛けている。	1つ1つのご意見に対して、真摯に向き合っていく。また苦情対応責任者だけでなく、意見を拾えるように職員一人ひとりが意識していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓			クラブだよりを年3回発行。LINE登録者に活動報告を定期配信。また法人からはニュースを発行している。	クラブだよりの紙面充実にも努める。またSNS等ご意見をいただきながら、情報提供のあり方について今後も検討していく。
	35	個人情報に十分注意しているか		✓		意識しているつもりであったが、手紙を誤って持ち帰る事例が発生した。	個人情報の管理は当然のこと、名前が記載しているものはすべて個人情報であることを改めて確認する。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		✓		学校、自宅での取り組みや様子を聞き、工夫するように心がけている。	どの方法がいいのか、模索・検討を継続していく。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			✓	回覧板、施設外清掃等での交流はあるが限定的になっている。	コロナ以前のように、地域の行事に参加する等、折を見て再開させていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		✓		各種整備しているが、ご家族に向けては説明不足がある。	マニュアルの確認・検証を継続する。また事業所の利用時だけでなく、懇談時や広報誌などを使って説明を行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		✓		避難、消火、救急救命訓練は定期的に行っている。BCPを作成した。	水害・ハザードマップについての研修は実施したが、訓練を行っていない。BCPは作るだけでなく、検証を行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓			毎年、事業所単位・法人、虐待防止の研修を行っている。	虐待防止は知識だけでなく、支援の力向上にも継続して取り組む。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	✓			身体拘束マニュアルがある。事業所を利用いただく前に説明を行っている。	事業所の身体拘束についての考え方について記載しているが、十分説明が出来ていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	✓			利用前の面談時に、身体的な状況、服薬について確認している。	服薬変更等、懇談時に確認するようにしているが、漏れがないように確認していく。必要に応じて、医師の意見書の提示を求める。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		✓		ヒヤリハット報告書を作成、月毎の会議で情報共有を行っている。	検証を行う時間が十分持てていない。大きな事故につながらないように、一つひとつの報告を大切に検証する。(虐待防止委員で報告)

保護者等向け 児童発達支援評価表

社会福祉法人 花の会 さくらクラブ
 高槻市大冠町3丁目13-1
 TEL:072-674-6790
 FAX:072-674-6791

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	5	1		1	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6		1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6			1	
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	5	2			
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5	2			
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4	1		2	
	8 活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	6			1	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	2	2	
適切な支援の提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	7				
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	2	1	1	3	
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	7				
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	1		1	
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4			3	

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	5	1		1	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5		1	1	
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	6	1			
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	5	1		1	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	1		3	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	7				
	23	事業所の支援に満足しているか	7				

i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

(保護者等の皆様へ)

○ この児童発達支援評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	15	2			
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	11	2		4	
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	14	2		1	
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	16			1	
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	15	1		1	
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	2	12	
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15	1		1	
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15	2			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	3			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	16			1	
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12			5	
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16			1	
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	17				
	14	個人情報に十分注意しているか	14			3	
非常 時等 の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	14			3	
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	11			6	
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	15	2			・いつも楽しく通所させてもらっています。
	18	事業所の支援に満足しているか	15	2			

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

(保護者等の皆様へ)

○ この放課後等デイサービス支援評価表は、放課後等デイサービスを利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。